

おわかれ音楽会

今年度の音楽会は、新型コロナウイルス感染症対策を行いながらの開催となりました。2日間のうち、1日目は保護者鑑賞日、2日目は児童鑑賞日です。子どもたちの中には、2日目を“本番”と表現している子がいました。この表現は、本校のおわかれ音楽会の意義を再確認させてくれる、まさに本質に迫る言葉です。子どもたちが、なぜ“おわかれ”音楽会なのかということをよく理解していることが分かります。1年生から5年生はただきれいに、上手に歌うのではなく、6年生に“ありがとう”の想いを込めて歌う。そして6年生は下級生に対して、自分たちで考えた思いを込めてオペレッタを演じる。そこには音楽と演技を通して伝え合う強いメッセージがあります。上手いとか下手だとか、そんなものさしではかることができない音楽のあり方です。おわかれ音楽会の素晴らしさは、そのような音楽をつくり出すことができることにあるのではないのでしょうか。思いを込めた歌は人の心に響き、感動を与えてくれます。ある6年生は、1年生の歌声を聞いて涙を流していました。子どもたちの思いは、6年生にしっかりと伝わっていたようです。



- 【1年】
わんぱくマーチ(歌)
グッデイ グッバイ(歌)
- 【2年】
星の大地に(歌)
クラッピング・ファンタジー(リズム合奏)
- 【3年】
船出の朝(歌)
銀河鉄道999(ボディパーカッション)
- 【4年】
この地へ(民謡)
小さな勇気(合唱)
- 【5年】
飛行船(合唱)
レイダースマーチ(合奏)